



同志社大学大学院
(行政評価局評価監視調査官)
高橋 大樹 平成22年入省
TAKAHASHI DAIKI

変化への対応力を身につけよう

研究を通じて「あるべき姿」を考える

私は、行政官国内研究員として、同志社大学大学院総合政策科学研究科で行政相談機能の研究を行っています。入省後、国民の皆様から相談を受け付け、行政の改善を促す行政相談制度などに従事してきましたが、その中で、行政が「国民の意見」を把握し、反映させることの重要性を強く感じるようになりました。研究では、行政の「あるべき姿」を見据えながら、行政相談の情報収集機能に着目し、行政相談制度のさらなる活用方策について検討しています。

行政を取り巻く環境が急激に変化する現代では、変化に対応するため、行政にも変化が求められています。そうした状況において、行政の改善につながるヒントが相談として寄せられる行政相談制度の重要性は、ますます高まっています。今後は、研究で得た知見を実務に反映させていきたいと考えています。

仕事を通じて自身も変化していく

総務省の魅力の一つに「業務の幅広さ」があります。これは、「活躍の場の幅広さ」とも言い換えられます。私の場合、これまでの業務の中で、様々な市町村を訪れたり、諸外国を訪れたりする機会に恵まれました。この他にも、総務省における活躍の場は、ローカルなものからグローバルなものまで、幅広く用意されています。

また、「人材の多様性」も魅力です。「業務の幅広さ」は、職員のキャリアパスを多彩なものにしています。このため、同僚との会話の中から新たな視点を得ることが少なくありません。総務省では、業務を通じて自らの能力を高める機会が得られますが、これに加え、研修や留学の機会も充実しています。あなたの活躍の場として、また、能力を高め、変化への対応力を身につける場として、総務省で働くことを検討してみたいはいかがでしょうか。



フランス留学をして思うこと

フランスに留学する意義

私は現在、フランスのボルドー政治学院において、データに関する法政策の研究をしています。入省後、欧州各国、EU、国連専門機関であるITUとの交渉を担当し、情報通信分野における欧州との関係、国連の公用語の一つでもあるフランス語の重要性、及び将来的に国際機関等へ派遣されることを視野に入れ、グランゼコールで研究することにしました。

ネット社会である今、世界中の情報を得ることは比較的容易ですが、交渉の中で、何故彼らがそのような発言をし、交渉態度をとるのか、そのような機微はやはり現地に来て、この環境で彼らと生活する中で得心することが多々あります。昨年末から報道されているフランスでのデモ“Gilets jaunes”についてもそうです。

考えの根本が違うということを学べることは今後の交渉において大変意義のあることだと思います。



仏ボルドー政治学院
(情報流通行政局総務課主査)
尾崎 敦子 平成22年入省
OSAKI ATSUKO

やりがい×成長の機会＝総務省

私が総務省を志したのは、情報通信が既に我々の生活に欠かせないものであり、また今後も時代の最先端であり続けると思ったからです。自分も含め国民の幸福に寄与できる職務であるという点にやりがいを感じています。

現在はフランス語のみの生活ですが、私は帰国子女でもなければ、元々語学が堪能だったわけでもありません。これまで日EU・EPAの準備交渉、欧州各国との政策協議、ITUでの約190か国が出席する国際会議等で交渉を担当する傍ら、英語・フランス語の習得に励みました。同様に、同僚も仕事の傍ら、語学に留まらず必要なスキルを身に付けています。そして、そのための研修機会も十分設けられています。さらに、留学や民間交流、在外公館や国際機関への派遣等、業務の幅も広く、それだけに成長の機会も多分にあるといえます。

